

日刊
印刷
人川崎文治
本社下同番地(電話六三〇番)
印刷所 常磐毎日印刷所



刊夕日四月一十

定部金貳錢
一ヶ月廿元
三ヶ月五十二元
半年九十六元
一年一百八十二元
廣告 一行一日一圓
一行五日五圓
一行一月十五圓
一行三月三十圓
一行半年六十圓
一行一年一百一十圓
電話六三〇番
常磐毎日印刷所

常磐論壇
政争を超越す
小山田劍南
朴烈問題は政争を超越したる國家的重大問題である。國務大臣が輔弼の大義を誤り、天人俱に許さざる大逆犯人を優遇し、延いて國家の基礎を破壊せんとし、而も飽くまで責任を逃避して恬然其職に留まり、強辯と欺瞞とを以て其非行を粉飾するに至つては、國民の一日も黙過し難き處であらねばならぬ。朴烈文字が減刑の奏請に價せざるものであることは、彼等が例の怪寫真まで寫してやらねばならぬ程に係りの官憲を手古摺らせたることが明白に之を立證してゐるではないか。往年の幸徳秋水は獄中に在つて若干悔悟の狀を示したるに聞き及ぶも當時の爲政當局は減刑の奏請をしなかつた。而して國民もまた減刑の奏請を爲さざりし當局の處置に對して何等の異議を挾まなかつた。それ程我國民は皇室に對して不利を圖る者を憎むの念が痛烈なのである。然るに朴烈文字の如く何等改悛の情を示さざる大逆犯人に對して減刑の奏請を敢てするに至つては是れ明かに吾が國民の皇室に對する尊崇心を蹂躪したる不敬不忠の行爲と謂はねばならぬ。況んや事前に減刑の御沙汰を漏洩するに至つては是れ明かに大權を干犯するものにして其罪當に萬死に當るべきである。若槻内閣にして大逆犯人に對する處置を誤りたる其重大なる責任を痛感して直に總辭職の擧に出でたらんには、今日の如く國家の大驕動を惹起せず済みたるものを頑冥不靈飽くまで國民の耳目を掩蔽して其責任を逃れ以て政權に啗ちり付かんとするよりして國民公憤の激する所、遂に收拾す可からざる問責運動となつたのである。(つづく)

價定部金貳錢
一ヶ月廿元
三ヶ月五十二元
半年九十六元
一年一百八十二元
廣告 一行一日一圓
一行五日五圓
一行一月十五圓
一行三月三十圓
一行半年六十圓
一行一年一百一十圓
電話六三〇番
常磐毎日印刷所

冬物特價
ニコン 一〇〇
ふとん皮 七五〇
白新モス 七五〇
晒木綿 九〇五
正紺綿 五〇五
白時雨面ネール 八〇
京都友染モス 一二〇
外に格安品
豊富に取揃ひ候
三井呉服店
平町三丁目電話三三八番
日十診療開始
内科
院長 兼 部長
醫學博士 菊地 泰助
醫學博士 松野 松治
醫學博士 野田 宏
醫學博士 松永 琢磨
醫學博士 菊地 泰助
主任 醫學博士 和田 宇市
技師 和 田 宇 市
外科 皮膚泌尿科
部長 醫學博士 野田 宏
顧問 醫學博士 松永 琢磨
衛生試驗所(理化學的検査)
主任 醫學博士 菊地 泰助
技師 和 田 宇 市
藥劑師 吉本 孝平
病院長 賀澤 忠治
産婦人科 耳鼻咽喉科に迄開始
平町 城 共済病院
電話六四一 番
診察時間午前九時より午後二時迄
急患は此限りならず

警城セメント
警城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店
警城セメント 電話九番 一三九番
良品質 廉價に勝る 商標なし
確實敏捷は釜屋の生命なり

冬物特價
ニコン 一〇〇
ふとん皮 七五〇
白新モス 七五〇
晒木綿 九〇五
正紺綿 五〇五
白時雨面ネール 八〇
京都友染モス 一二〇
外に格安品
豊富に取揃ひ候
三井呉服店
平町三丁目電話三三八番
日十診療開始
内科
院長 兼 部長
醫學博士 菊地 泰助
醫學博士 松野 松治
醫學博士 野田 宏
醫學博士 松永 琢磨
醫學博士 菊地 泰助
主任 醫學博士 和田 宇市
技師 和 田 宇 市
外科 皮膚泌尿科
部長 醫學博士 野田 宏
顧問 醫學博士 松永 琢磨
衛生試驗所(理化學的検査)
主任 醫學博士 菊地 泰助
技師 和 田 宇 市
藥劑師 吉本 孝平
病院長 賀澤 忠治
産婦人科 耳鼻咽喉科に迄開始
平町 城 共済病院
電話六四一 番
診察時間午前九時より午後二時迄
急患は此限りならず

貸家廣告
仲間町 勤人向 十四圓
停車場前旅館 十二圓
小島 白銀町 會社向 卅圓
加藤營業所 白銀町 電話三二番
平町紺屋町(縣社通り) オの部電話四六〇番

市川百々之助 決死の大雄篇!!
帝キネ声屋入作
悲劇 片思ひ 十三巻
松本泰輔、歌川八重子主演
當る五日より
直營 帝キネ
マキノ超特作品
大時憤 怒 十巻
大谷友三郎、マキノ輝子主演

青病藥 定價 一週間分
靈藥 定價 一週間分
本藥は代々前記疾患の難病者に施薬し來れる靈薬なれど今般廣く諸人救濟の目的を以て販賣せるものなり
鈴木銀太郎
平町紺屋町(縣社通り) オの部電話四六〇番

支那料理 喜來軒
祖元支那料理 喜來軒
近藤 喜多治
平町紺屋町(電話五四五)
女給三名至急募集

吉田眼科醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

養滋之賦天 蜂密
德田博士推薦
純良食用 蜂密
病弱者は勿論保健衛生を重んずる人は常用せられよ
効 胃腸、心臓、かせ、せき、
能 偏頭痛、肥大病、その他
ハカリ賣りも致します
蜂蜜生産 蜂群養成 石城養蜂場
(平町販賣店) 平町金子酒店、五丁目山野邊藥局、南町龜山酒店、土橋大森商店、搦槌小路大須賀商店
平町 紺屋町 電話一三九番

外科 入院應需
上田外科醫院
平町 南町
電話一二九番

支那料理 喜來軒
祖元支那料理 喜來軒
近藤 喜多治
平町紺屋町(電話五四五)
女給三名至急募集

体育デーの平町は 發火演習や競技會

恵まれた小春日和に 全町に漲る運動氣分

明治神宮競技會は今や全国的に白熱の人氣を煽つてゐるが三日は全國体育デーとして此日にふさはしい催しがあり平町でも各官公私立校を始めそれ／＼体育の獎勵に關する講演或は各種の競技會を催した。縣立中學校では二日より三日にかけ夏井高久を中心に全校生徒紅白にわけて大發火演習あり縣立警城女學校では三日は午前八時より全生徒職員總出で校庭に於てヴァレボール、デットボール、庭球、ピンポン、弓術等の競技を午後一時より神宮競技大會に出場し萬丈の氣を以て警女校の意氣を天下に知らして歸校した。庭球部選手の慰勞會を爲し町立平商業學校は全生徒を職員引卒の下に赤井嶽登山私立平陽實科女學校では午前八時より体育に關する講演次で正午より庭球ピンポンの試合をなした。又平第一二の小學校では校庭において紅白陸上大運動會を催した。

八苦の 有様となり

一方鎌田遊廓並に南町の白首は案外上景氣で遊廓などでは人數が尠くないのに金額が多いがここにもお茶っ引きをなすものが尠くない。斯うして之等花柳界の不景氣であるかが窺知される之と反面に平町質屋の景況は

例年より入質が少

く受質が多いと云ふ現象でむしろ好況を示し労働者階級よりも中流階級の俸給生活者が苦しい様な有様である。

内郷村の 都市的施設

第一期計畫

内郷村は人口二萬餘を有し一郡邑の觀あるが更に警城炭礦會社の採炭が隆盛になり、礦區が擴大増加するにつれ人口が増加する一方、都市的施設計畫を進むべく準備中であつたが第一期計畫として上水道敷設、瀝毒水流入を防止するために耕地整理を完全にする、溜池設置を行ふことになつた、また同村有志は平町松ヶ岡第二公園下に

藝者の不景氣 質屋の好況

平町昨今の世相

財界不況の昨今平町藝妓の景況はと聞くところでお話にならない不景氣で「お茶っ引き」をなすものが非常

綴炭礦内に 湧出する 鑛泉をひ

き、文化的設備をした温泉場を目論で目下投資家を物色中であるが同所は幽する

甘粕元憲兵大尉 深更密に平驛通過

昨三日早曉の急行で 常磐線を上野驛へ

甘粕元大尉並に身邊擁護の任に當りつつある憲兵當局ではその秘密の隠れ家が發見された結果に他に適當の方法を講ずるの必要ありかつは又かゝる行動を續くるの愚策なるを感じ一日午前甘粕元大尉、同氏の弟二郎氏、今回憲兵司令部から來た増岡大尉の三人は甘粕氏の隠れ家の旅館居室で善後處置を協議した、同時に今まで甘粕氏の護衛の任に當つて居た池田憲兵伍長を東京に歸して二日午後二時巧に同所から警戒嚴重にして仙臺に入り込同夜急行の常磐線より二百六號列車に乗込み三日午前八時三十五分に上野に着し人目をさげ

死体から 脳味噌を抜く

内郷の隠亡送檢

石城郡内郷村宮火葬場隱亡燒宮城縣伊具郡館内村生れ佐々木幸次郎(五)は卅一日朝頼まれた同村警城炭礦高坂礦坑夫富山縣下新川郡啞田村生れ濱田政治郎(三)の頭蓋骨を打ち腦漿をぬき取り喘息病の靈藥であるとのことから之を服用した事平署に探知され四日取調への上送檢された

金子技師渡歐 石城

出身内務技師金子久次君歐米に出張を命ぜられ本月八

て暫く醬油の中に漬けておきます。生姜は皮をむき薄く小口切りとし、葱は一寸位に切り、更に豎に細く切ります。次に大皿に生姜を一面に敷きその上に醬油に浸した魚をとり出して並べ、尚其上に葱をかぶせて又暫らく置きましたから生姜と葱を取り除け、熱した胡麻



サナマの醬油揚

サナマ五尾、根生姜三個、葱三本、大根五十匁、醬油一合五匁、サナマは頭と尾を去つて三枚におろし、薄身をすきとつて四切に分け

東京第一 ラヂオ初舞台

穩やかならぬ心持

「君、上京する機會があつたら、僕から推薦して上げるから一度ラヂオを放送して見給へ、壇上に立つのとは全々異つた

氣分が

あるよ」とは恩師巖谷小波先生が以前から云はれて居た事であつた、今度の滞京を機會に漸く宿望がなつてラヂオの初舞台を踏む事になつたのである。放送局の道滿講演部長の話に依ると地方か

一骨折

の事だ、僕は巖谷先生の紹介状を持つて道滿部長に面會したのであつたが「巖谷先生からの紹介は今迄大いに名刺であつた、先生の手紙を持参したのは貴君が始めてである、然も其文面が懇篤を極めて居る事に依つ

童話界

に如何なる足跡を印した人であるかの想像に難くない」とて直ちに快諾された、愈よこれに僕も放送のお仲間入りが出来た譯である。卅一日の朝突然婦人の聲で電話がかゝて來た、「私はラヂオ新聞社ですが放送なさるお話を聞きに是れからお宿へ伺つて

お差支

へないでせうか、斯ふした前ぶれのもうか、僕を下宿の一室に訪問して呉れた婦人記者が歸る間もなく讀賣新聞の記者が自動車を飛ばして來る、其次は都新聞の記者が速記

各新聞

には盛んに僕の童話を紹介して呉れてある、然もラヂオ新聞や都新聞はどこからどう工面したか僕の寫眞迄のせてある、全く東京の新聞の機敏な遺方には田舎記者の僕たるもの大いに舌を巻かざるを得なかつた、それにしても斯ふして

原稿を

書いて居る間に愈よ放送の時間は迫つて來る、處女講演である丈

日東京驛發渡航の途に就く 鑛炭に 建國會支部

目下會員募集中

近來各炭礦における労働者の思想が漸次悪化し來らんとするの傾向を馴致され來つたので濱崎善三郎、若松總太郎外二三諸氏協議の結果この悪化を防止するがために國民全般が建國の精神に出でなければならぬといふところから上杉慎吉博士を會長とする建國會の支部を石城郡内郷村を中心とし設置するに決し目下各方面に亘つて會員募集中である

平町物價

品名	單位	價格
白米	一升	四〇〇〇
白米	二升	三九〇〇
白米	三升	三八〇〇
白米	四升	三六〇〇
白米	五升	三五〇〇
白米	六升	三三〇〇
白米	七升	三一〇〇
白米	八升	二九〇〇
白米	九升	二七〇〇
白米	十升	二五〇〇
白米	十一升	二三〇〇
白米	十二升	二一〇〇
白米	十三升	一九〇〇
白米	十四升	一七〇〇
白米	十五升	一五〇〇
白米	十六升	一三〇〇
白米	十七升	一一〇〇
白米	十八升	九〇〇
白米	十九升	七〇〇
白米	二十升	五〇〇
白米	二十一升	三〇〇
白米	二十二升	一〇〇
白米	二十三升	〇
白米	二十四升	〇
白米	二十五升	〇
白米	二十六升	〇
白米	二十七升	〇
白米	二十八升	〇
白米	二十九升	〇
白米	三十升	〇
白米	三十一升	〇
白米	三十二升	〇
白米	三十三升	〇
白米	三十四升	〇
白米	三十五升	〇
白米	三十六升	〇
白米	三十七升	〇
白米	三十八升	〇
白米	三十九升	〇
白米	四十升	〇
白米	四十一升	〇
白米	四十二升	〇
白米	四十三升	〇
白米	四十四升	〇
白米	四十五升	〇
白米	四十六升	〇
白米	四十七升	〇
白米	四十八升	〇
白米	四十九升	〇
白米	五十升	〇
白米	五十一升	〇
白米	五十二升	〇
白米	五十三升	〇
白米	五十四升	〇
白米	五十五升	〇
白米	五十六升	〇
白米	五十七升	〇
白米	五十八升	〇
白米	五十九升	〇
白米	六十升	〇
白米	六十一升	〇
白米	六十二升	〇
白米	六十三升	〇
白米	六十四升	〇
白米	六十五升	〇
白米	六十六升	〇
白米	六十七升	〇
白米	六十八升	〇
白米	六十九升	〇
白米	七十升	〇
白米	七十一升	〇
白米	七十二升	〇
白米	七十三升	〇
白米	七十四升	〇
白米	七十五升	〇
白米	七十六升	〇
白米	七十七升	〇
白米	七十八升	〇
白米	七十九升	〇
白米	八十升	〇
白米	八十一升	〇
白米	八十二升	〇
白米	八十三升	〇
白米	八十四升	〇
白米	八十五升	〇
白米	八十六升	〇
白米	八十七升	〇
白米	八十八升	〇
白米	八十九升	〇
白米	九十升	〇
白米	九十一升	〇
白米	九十二升	〇
白米	九十三升	〇
白米	九十四升	〇
白米	九十五升	〇
白米	九十六升	〇
白米	九十七升	〇
白米	九十八升	〇
白米	九十九升	〇
白米	一百升	〇

平の在米高

穀物検査所平支所管内一日現在の在米高九千六百七十四石で内地主持米三千三百六十二石自作農持米四千九百二十六石小作持米九百四十六石商人持米二千六百一十七石で前年同期に比し二千九百八十石を増じたのは地主及び小作の持米が多いため商人持米が却つて百七十六石の減少を示してゐる